

2. 標準化

標準仕様書が印刷されているので、その内より必要部分のみを
取出し、赤エンボツで特記仕様に変えて、タイプライター回す。
詳細標準図を図面り見出し付け、青紙表きして出て来たものを
赤エンボツで訂正する (※2原図)

標準機器表に鉛筆で記入、タイプライター回す。

鉛筆の濃さ、シタリングサイズの類推し、出来るだけ似性のない
図面を描くこと。

時間の節約と最低技術の保証となる。

3. チェック過程

設計チェックガイドが与えられ、基本設計グループでは
設計骨子を、実施設計では詳細のそれぞれをチェックする。
その目的として「ジョブキャプションを助けるために十分理由
のある誤りを指摘し、改訂するもので、ジョブキャプションの
勤務評定ではない。チェック者は建設的な態度で、
これにのぞみ、推測は避けるべきである。チェックはジョブ
キャプションとチェック者の協力のもとで行われるべきで、又
仕様書のチェックは図面と同時に行う」とある。